

# 柚ゆずの木

平成七年五月五日号

柚木ゆのきと浦町の境あたりに、柚木神社ゆのきがあります。

古文書によると、この神社は治安二年（一〇二二年）に建てられ、柚木という地名の由来となった神社だと書かれています。

今回は、長年この神社の氏子総代を務めていた磯野龍彦たつひこさんから、お話を伺いました。

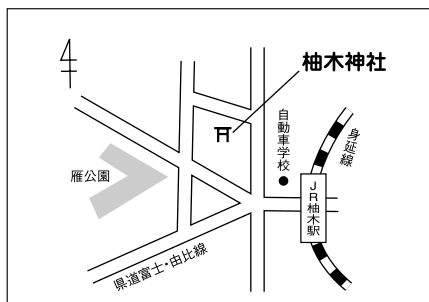
約千年もの昔、今の柚木周辺が、まだ富士川の河原だったころのことです。ある年、大水が出て甲州（山梨県）の方からユズの木が

流れてきました。

ユズの木は、そのままそこに根つき、だんだん大きくなりました。やがてその木の太さは、大人三人で幹の周りを囲んでやつと手が届くほどに、高さは五丈八尺（約十七メートル）も

の大木になりました。そして、そのユズの木を中心に何本ものユズの木が生えて、林になりました。生命力の強いユズの木を見て、村人たちは、「この不思議なユズの木には、きつと神様が宿っているに違いない」と、柚木神社を建ててあげていました。

そのころ、全国で大地震が起きて、多くの人が死んだり、ひでりが続いて作物ができず、



飢え死にする人が出たりしました。そこでユズの木の近くに住んでいた百姓、秀安という



▶ 柚木神社

人が、ユズの葉を全国へ配ったところ、たちまち地震はおさまり、雨も降って作物がよくできるようになりました。

お上<sup>かみ</sup>では、柚木神社に感謝し、祭りの費用だとして、毎年、秀安に黄金五十枚をくださったということでした。

### 磯野龍彦さん（柚木）

神社の祭りは、今も毎年九月に行っています（平成七年）。しかし、残念ながら今では、柚木神社の周辺に大きなユズの木はありません。八年前に神社の境内にユズの木を植えたんですが、なかなか大きくならなくて…。

今もなお、家の敷地内の鬼門にユズの木を植えるところがあります。ユズの木にはとげがあるし、香りのある実もなるので、きつと魔よけの霊力があると信じられているんですよね。